

| | | | |
|--|---|-----|---|
| 研究構想シート | | 学校名 | 隠岐の島町立都万中学校 |
| | | 氏名 | 八幡 賢一 |
| A 研究主題 「自立・共生・創造」の力を生徒が身につけるために ～学校行事の前後で適切な助言をすることで、「自立・共生・創造」の力を伸ばす～ | | | |
| B 研究の目的 学校教育目標である「自立・共生・創造」の能力を生徒が身につける | | | |
| C 子どもの実態 学校の諸活動に対してまじめに取り組むが、生徒の方から積極的にアイデアを出したり自主的に動くことは少ない。学校教育目標である「自立・共生・創造」の能力が本当に身につけているか、もっと伸ばすことはできないものか模索しているところである。 | E 手だて・内容（研究仮説） 業者とタイアップして生徒の意欲調査（Edv Path）を主要な行事のごとに行って、生徒の実態を把握すれば、諸行事に対する意欲向上の方策を明らかにでき、「自立・共生・創造」の能力を伸ばすことができるであろう。 | | D めざす子どもの姿 諸行事に対して生徒自らがアイデアを出したり、教師が指示を出さなくても自分たちで行動することができる。互いの違いを認め合い、他者を尊重しながら、諸行事や学習に取り組むことができる。周囲に流されることなく、自分の判断で行動できる。 |
| | F 検証方法 業者とタイアップして生徒の意欲調査（Edv Path）を主要な行事の前後で実施し、目に見えない能力（事故理解力や対人関係スキルなど）を数値化して、学級、生徒個人々の傾向を知る。その上で学級、それぞれの生徒への指導方針や声掛けの内容を教職員で吟味・実行し、学校教育目標に掲げてある「自立・共生・創造」の能力がどれだけ伸びたかを検証していく。 | | |
| | G 研究計画 大きな学校行事（学園祭など）の前にEdv Pathの調査を生徒が行い、明らかになった傾向に基づいて教職員で指導やアドバイスの内容や方法について話し合う。行事の後に再度Edv Pathの調査を行い生徒の内面の変容を数値で明らかにする。このサイクルを1・2学期は2回程度、3学期は1回行い、年間を通しての生徒の目に見えない能力の成長を数値として検証する。 | | |